

046

## 地域住民主導の防災インフラ整備 ～安心安全できれいなまちづくりへ～

取組主体

鶴見区市場西中町まちづくり協議会

従業員数

想定災害

実施地域

24人

全般

神奈川県

- ・住民主体で策定した防災まちづくり計画に則り、ハード面（道幅の拡張や防災公園の新設等）とソフト面（防災に関する住民ワークショップの実施等）の両面から、まちづくりに取り組んでいる。

### 1 取組の概要

#### 道路拡張や防災用設備の整備等を実施

- ・災害に強い安心して住み続けられる町を目指し、まちづくりに取り組む鶴見区市場西中町まちづくり協議会は、粘り強く地権者や関係機関へ働きかけることで、まちの道路拡張を実現し、防災設備を備えた公園の整備や避難経路の確保等を行った。
- ・また、ハードの整備のみならず、防災公園の訓練や、ワークショップ等、住民参加を促すソフト面の防災取組も行っている。

### 2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

#### 粘り強い説明・広報により住民の合意形成をはかる

- ・まちの道路拡張に関しては、土地や住まいに関することにも関わるため、地権者等との合意形成が必要となるが、他地域に住みながら町内に土地を所有する人にも広報を配布するなど、粘り強い説明を続けてきた。また協議会の会員の人脉も活用しながら、土地に関する情報の早期入手を徹底した。
- ・空き家などの建て替えの際の建設や工事の前には、建築主にまちづくりの取組を説明した上で、計画概要などの提出を依頼し、防災のまちづくりとなるように推進してきた。



道路拡張を祝う完成式典

#### 非常扉や雨水タンクの設置、防災公園の開設も

- ・出入り口が一つしかない袋小路の家に住む住民が、有事の際に避難が遅れてしまわないよう、行政や土木事務所と近隣住民の協力を得て、隣の家との間に非常扉を設置した。
- ・町の至る所へ防災備蓄や雨水タンク等を設置。備蓄の中には、スタンドパイプ・簡易トイレ・鍋釜から水や乾パン等の食料品・乾電池等を備蓄している。さらに、火災に対する防災から地下に 40 m<sup>3</sup>の防火水槽とかまどベンチ、簡易トイレを備えた防災公園も2つ開設した。



防災公園での訓練

#### 住民に防災を自分ごととして考えてもらうソフト面の仕掛け

- ・避難時に避難指示が伝わりやすくなるように、道路に名前をつけた。名前は公募で命名し、ゼンリンの住宅地図にも使われている。（北から南に順に、ゆうづる通り・運動公園通り・旧東海道・中学校通り・きらきら公園通り）
- ・道路完成の際には、町民とともに盛大に完成式典を行うことで、防災を自分ごととして捉えてもらう機会を作った。
- ・防災公園開設に当たり、自分たちの公園という意識を持ってもらうために子ども会・老人会・自治会と3つのワーキンググループを作り、それぞれワークショップを開催した。公園の名前を公募した際に多数の応募があったことから、「自分たちの公園という意識を持ってもらう」という狙いは、ある程度達成されたと考えている。

### 3 取組の効果

#### 大規模災害時に被害者はゼロ

- ・2011年東日本大震災や2019年台風19号では、車や人が無事に避難できたため、町民の被害者はゼロであった。

4 取組への想い

1958年狩野川台風で多くの家屋が床上浸水を経験

- ・ 同町は古い木造住宅が密集し、道路は狭く、舗装されていない路地、高いブロック塀もあり、災害時に避難がスムーズにできないという課題があった。また、1958年の狩野川台風で床上浸水の経験者が多く、防災に関心が強い層が元々多かった。

「地域まちづくり組織」と「防災まちづくり計画」の認定

- ・ 2003年に横浜市の住宅密集地区と指定されて以来、防災に強いまちにしていくべく、行政・コーディネーターの指導を受け勉強を始め、防災まちづくり協議会を立ち上げ、2006年に横浜市から「地域まちづくり組織」として認定を受けた。

地域住民との強い協力

- ・ 避難経路を作り難い住民のために、近隣住民に依頼して庭を通らせてもらったり、隣家との間に避難扉を設けたりするなど、個別の事情を考慮して取り組むにあたり、地域住民からの理解は非常に重要だと感じている。

5 防災・減災以外の効果

ごみ置き場の整備&メンテナンス

- ・ 防災を広く捉え、火災防止の観点からごみ対策に注力した。これは、まちづくり協議会の各プロジェクトと同じく、「住民の目に見える結果につながる活動」の一環という側面がある。また、月2回の町内全域のごみ拾いも実施している。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・ 歴史が長い町のため、古い家が多く高齢者も多い。大地震での家屋の倒壊や、大雨の時の浸水時などにおいて、避難路を確保し、高齢者をどのように避難させるのかについて、課題として取り組んでいる。
- ・ 最大の課題は後継者不足。子ども会などの地域団体・組織を巻き込んだワークショップや、地域イベント等を実施しながら後継者を探している。
- ・ 実現が厳しい課題は、電柱の地下化と旧東海道の歩道の設置。
- ・ まだまだ古い木造家屋、行き止まりの狭い道、未舗装の道や空き家もあるため、本町独自の防災マップを作成中。

7 周囲の声

- ・ 「道路が拡張されたことで、車が曲がりやすくなり、お祭りの山車や神輿も通りやすくなって助かった。新設の公園で行う防災訓練も助かる。ぜひ継続してほしい。」（近隣住民）

担当者の声

- ・ 本町は、6.2haの小さな町で、皆さん顔なじみです。子ども会・老人会含めた地域活動にいつまでも参加してほしいのです。駅に近く、フラットな土地で、お医者さんが二軒あります。お年寄りに優しい町です。生まれ育った町はいいものです。いつまでも大事にしたいと思います。
- ・ 行政、コーディネーター、町民があつての今のまちづくり協議会です。しっかりした組織を作りリーダーを決め、できることから1つ1つ解決していくことだと思います。
- ・ 皆さんの意見を聞き、また識者の意見を聞き地道に焦らず一つ一つ解決していくことだとも思います。解決した時の喜びは子どもころの算数の問題が解けた時と同じです。うれしく楽しいものです。また次の課題に取り組もうというモチベーションになります。長く続けることの難しさとともに喜びもあります。ありがとうございます。

問合せ先

鶴見区市場西中町まちづくり協議会

電話番号：080-9676-1105 E-Mail：k-kuma@gold.ocn.ne.jp

動画

—

サイト URL

—